

気候危機における思春期の女の子たち:

ザンビアとジンバブエからの声

September 2021



ある12歳の女の子は、干ばつと洪水で収穫が台無しになり、1日1食しか食べられないため、学校でよく居眠りをしてしまう。(ザンビア)

©Plan International

注: この写真は調査参加者のものではない。

謝辞

レポート執筆者: ザンビアとジンバブエのユース女性調査員（11ページ「ユース女性調査員とレポート執筆者の紹介」参照）、Lucy MazingiとDarlington Farai Muyumbwa。

この報告書は、さまざまな協力者の努力の結果、完成したものです。しかしながら、この報告書の主な執筆者、そして真の所有者は、調査の全過程に参加してくれたたザンビアとジンバブエのユース女性調査員および彼女らが訪問を通じて関りを持ったコミュニティの人々です。彼らの献身的な協力に感謝いたします。

ザンビアのプラン・インターナショナル（以下プラン）のDolly Chanda、Evelyn Lungu、Mwango Mwenya、ジンバブエのプランのPamela Chinembiri、Mandy Rukaがメンターとして調査の実施プロセスに協力し、ユース女性調査員によるこの調査を成功に導いてくれたことにお礼申し上げます。

プランの技術的支援、特に、ユース女性が一貫して主導するという調査の基本理念を崩すことなく、調査過程を調整してくれたShadreck MwabaとMartin Kalumba（ザンビアのプラン）、Masimba Mujuru（ジンバブエのプラン）、Isobel Fergus（プラン国際本部）にお礼申し上げます。

プロジェクト全般への技術的支援をしてくれたSOAS大学、特に気候変動の困難に直面するユース女性の苦境と願望、およびフェミニスト・ユース女性が全面的に主導するプロセスという両面を反映させた技術的に確かな調査を可能にしてくれたTom Tanner博士、Lucy Mazingi、Darlington Farai Muyumbwaにも深謝いたします。

また、スウェーデン、フィンランド、UKのプランおよび国際本部からの資金援助に謝意を示します。

本報告書について貴重な意見を提供した以下のプランスタッフに感謝申し上げます: Katherine Philipps（オーストラリアのプラン）、Jessica Cooke、Jacqueline Gallinetti博士、Rachel Lumley（プラン・インターナショナル・グローバルハブ）、Sara Tornros（スウェーデンのプラン）、Masimba Mujuru（ジンバブエのプラン）

編集: Sharon Goulds

デザイン: Out of the Blue

目次

謝辞 1

主要定義 2

はじめに 3
調査目的 3
何ができるのか？ 4

背景 5

本プロジェクトについて 6

方法論 7

ユース女性調査員とレポート共同執筆者の紹介 10
ザンビアの調査員のプロフィールと振り返り 11
ジンバブエの調査員のプロフィールと振り返り 12
プロセスの始まり: 私たちの夢 14

コンサルティングチームによる調査結果の振り返り 15
気候変動によるコミュニティへの影響 15
気候変動がユース女性に与える影響 16

ユース女性調査員の知見 17
ザンビアの気候変動に関するストーリー 17
ザンビア: 私たちが学んだ主な適応策 18
ザンビア:気候変動が女の子とユース女性の意思決定に及ぼす影響 19
気候変動に対応するステークホルダー 19
ジンバブエの気候変動に関するストーリー 20
ChiredziとTsholotshoにおける主な適応策 22
気候変動が女の子とユース女性の意思決定に及ぼす影響 22
気候変動に対応するステークホルダー 22

提言 23
全体的な提言 23
国別の提言: ザンビア 24
国別の提言: ジンバブエ 25

付録1:アドボカシー戦略 26
Chikonkomene、Chikobe、Chowa、Chipembi のためのアドボカシー戦略 26
Temfwe、Milishi、Kasoma、Mambilimaのためのアドボカシー戦略 27
ChiredziとTsholotshoのためのアドボカシー戦略 28

主要定義

この報告書では、調査の理解に欠かせないいくつかの用語が特定の文脈で使用される。

ユース女性調査員： 2つの国で調査・分析・執筆を行った20～28歳のFPAR（フェミニスト参加型アクション調査員）16名のことである。

思春期の女の子： 両国における14～19歳の調査対象者を指す。

フェミニスト・ポピュラー・エデュケーション: Paulo Freireから借りたアプローチで、批判的精神を培うと同時に、抑圧されたさまざまなグループの闘いに共感する非公式教育である。社会変革のためのツールとして利用されている。

はじめに

この報告書は、ザンビアとジンバブエにおいて気候変動が思春期の女の子とユース女性の教育アクセスにどのような影響を与えているかを調査したフェミニスト参加型アクション・リサーチ（FPAR）の主な結果を詳述したものである。調査はユース女性調査員が中心となって実施している。調査結果と同様、そのプロセスを通じた個々人の体験や分析も貴重なものである。

この報告書は、当事者である思春期の女の子やユース女性の視点を集約して書かれている。詳細な能力開発活動、データ収集、分析、執筆ワークショップなどの調査プロセスにおいて、彼らがどのように理解し、分析し、表現したかなど、報告書作成に至るすべてを収録している。FPARの手法を用いて、フェミニズム、気候変動、気候変動が教育に与えるジェンダー的影響についての共通の理解を深めることを目的とした一連のワークショップの成果をまとめたものが、この報告書である。

調査目的

調査全般の目的は、気候変動がザンビアとジンバブエの女の子の教育に与える影響を理解することだった。また、この2カ国で思春期の女の子とユース女性が気候変動への適応能力を高め、より環境にやさしい経済への移行に貢献できるようになるために公式・非公式教育が果たすべき役割を実証することだった。この調査は、思春期の女の子やユース女性の見解や生活体験を通して、気候変動が彼女たちの生活や未来をどのように変えているのか、理解を深めるための証拠基盤を構築しようとするものである。気候変動は、質の高い教育を阻害する要因になっていないか、もしそうならどのような形でなのか？また、思春期の女の子やユース女性が直面する気候関連の緊急課題に効果的に対処するために質の高い教育が果たすべき役割について、彼女たちの見解を明らかにすることも目的に、調査が行われた。



ジンバブエの未来像を示している。

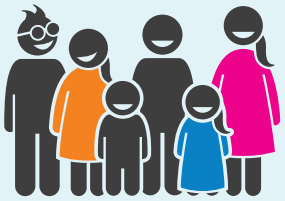
この2つの国では、すべてのコミュニティがさまざまな形で気候変動の影響を受けていることが明らかになった。気候変動が引き金となる天災で最も多いのは、洪水、降雨パターンの変化、繰り返される干ばつなどだ。多くのコミュニティが天水農業に依存していることから、こうした天災はいずれも食料不安の原因となっている。

この調査では、気候変動という概念に対する専門知識は限られているものの、若い女性たちが、特に降雨パターンの変化を通して気候危機の影響を経験していることが明らかになった。

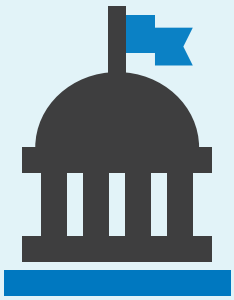
調査は、気候変動が女の子の生活にさまざまな影響を与え、彼女たちの脆弱性が増していると指摘している。また、気候変動の影響を最も受けている問題として、中途退学と強制された早すぎる結婚を挙げている。思春期の女の子たちの視点から見ると、気候変動はジェンダーの不平等を悪化させ、性暴力のリスクを高める要因になっている。

- 女の子は遠い場所から水を汲む仕事を担っている。
- 異常気象のため、思春期の女の子の通学が困難になることが多い。
- 気候変動により、身体的・性的虐待のリスクと脆弱性が増加する。例えば家が破壊され、女の子が安全でない場所に避難せざるを得ない場合に、身体的・性的虐待のリスクと脆弱性が増加するなどだ。
- 気候変動に起因する障壁のため、女の子の出席率が低い。
- 資源がますます制限される中、身体的・性的暴力の被害者らを救済する機会が限られている。

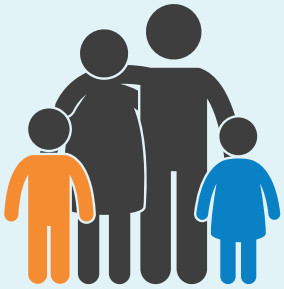
何ができるのか？



全体として、女の子とユース女性たちはコミュニティが気候変動という迫り来る課題に対処するために行動を起こすべきだと提言した。これには行動変容や慣習の見直し、**コミュニティ**によるより効果的な環境管理の実施などが含まれた。



彼女たちは、特に女の子やユース女性が直面している、学校への通学や出席への影響を軽減するよう、**政府**に呼びかけた。提言には、学校の増設、季節の変異に対応するための、学校の年間スケジュールの変更、サテライトスクールの設置、学校のカリキュラムに気候変動を取り入れることなどが含まれた。



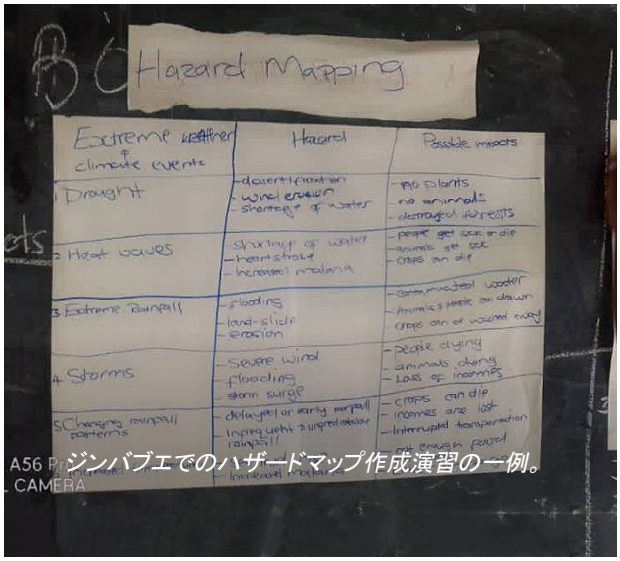
また、ユース女性たちは**コミュニティや家族**に対し、気候危機に直面した際に女の子やユース女性の教育や福祉を犠牲にして彼女たちを結婚させるという習慣を改め、その脆弱性を軽減するよう呼びかけた。



市民社会組織や民間企業を含むその他の関係者に対しては、気候変動に対するコミュニティの回復力を高めるためのプログラムを立ち上げ、気候変動に強い代替的な生計（を立てる）手段の創出を提言した。



分析ワークショップに参加したChisambaとChemeのユース女性調査員（ザンビア）。



ジンバブエでのハザードマップ作成演習の一例。

背景

この報告書は、ザンビアとジンバブエにおいて気候変動が思春期の女の子とユース女性の教育アクセスにどのような影響を与えているかを調査したFPARの主な結果を詳述したものである。

この報告書は、ユース女性調査員たちの集合的な視点から書かれている。以下の**「はじめに・背景」「本プロジェクトについて」「方法論」「振り返り」**は、FPARコンサルタントチームにより編集されたものである。これらの章は、報告書の作成に至る、詳細な能力開発、データ収集、分析、執筆ワークショップなどのさまざまなプロセスにおいて、ユース女性調査員がどのように理解し、分析し、自己表現したかを捉えている。

第7章と第8章**「ユース女性調査員の知見」と「提言」**は、ユース女性調査員の言葉で書かれており、ライティング・ワークショップでまとめられたものである。

ザンビアとジンバブエの若い女性が気候変動について調査、分析、行動できるようにするため、調査はあえて能力開発、データ収集、考察を含む手法を採用している。報告書は、FPARの手法を用いて、フェミニズム、気候変動、気候変動が教育に及ぼすジェンダー的影響について共通の認識を持つこと（理解を深めること）を目的とした一連のワークショップの成果をまとめたものである。気候変動とジェンダーの公平性を前進させる鍵がジェンダー・トランスフォーマティブ教育にあることから、調査は、ジェンダー、気候変動、教育の交差性に焦点を当てている。これにより、女の子は気候危機に取り組み、自分たちの権利を主張・行使するために必要なスキルや知識を身につけると同時に、ジェンダーや気候に関する不公正を助長する世界中のシステムや規範に挑戦するリーダーや意思決定者としての能力も備えることができる。技術的な問題と思われがちな気候変動だが、今回の調査はユース女性調査員の理解に合わせて、問題を絞り込んだ。そうすることで、彼女たちもコミュニティと関りを持ち、自分たちのコミュニティの理解や経験に光をあてた議論をリードできるようになるからだ。

プランは、気候変動の影響を最も受けているジンバブエとザンビアの農村地域に住むユース女性と協同し、彼女たちに同行して調査プロセスを指導・監督する、コンサルタント兼メンターを兼任するプロセス・ファシリテーターを選任した。ユース女性はプランの共同調査員として、コミュニティから情報を収集し、解釈するためのさまざまなツールについて指導を受けた。

この調査は、気候による影響に直面している人々に、この問題を理解し、対処するために必要な力を与え、通常は「調査される側」である人々を調査員に据えることで（研究者として装備することで）、従来のパワーピラミッドの逆転を図っている。また、エンパワーメントとプロセスを第一に考え、次にその結果としての活動、最後に学術的な成果という流れは、従来の調査プロジェクトの優先順位と真逆なものだ。

FPAR調査は2か国の複数のコミュニティで実施された。**ジンバブエ**では**ChiredziとTsholotsho地域**、**ザンビア**では**中央州のChisambaとLuapula州のChembe**を対象とし、Chipembi, Chowa, Kasoma, Mambilima, Milishi, Temfe, Chikoといったコミュニティで調査が進められた。選ばれ調査地区の詳細については、添付のテクニカルレポートを参照。



報告書は気候変動が思春期の女の子やユース女性の教育にどのような影響を与えるかについての実証的なデータを提供するだけでなく、女の子やユース女性自身が、気候変動による課題への脆弱性を軽減するために何をすべきだと感じているかを、特に教育に焦点を当てて示唆している。

また、調査員の選定、研修、データ収集、データ分析、本報告書の執筆に際しての方法論（使用したFPARプロセス）についても解説する。
詳しくは、テクニカルレポートを参照。

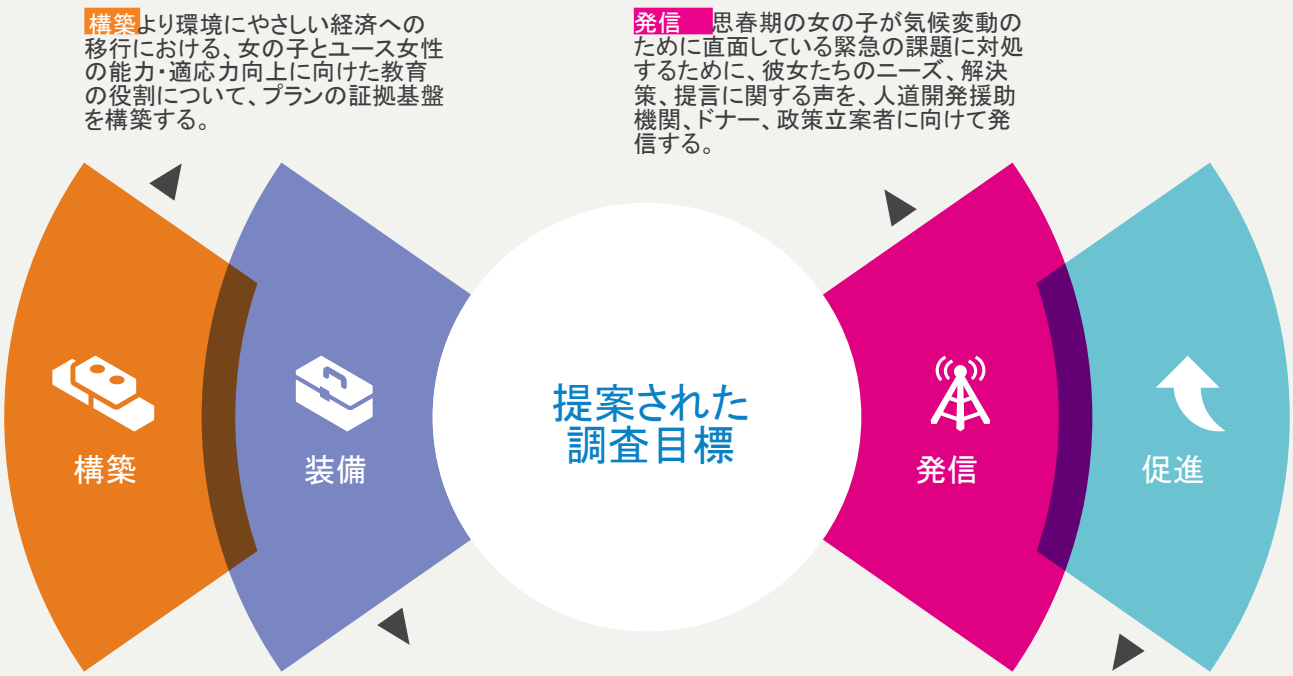
本プロジェクトについて

調査目的

このプロジェクトの当初の目的は、ザンビアとジンバブエにおける教育と気候変動に焦点を当てることだったが、最初のワークショップでユース女性調査員と話し合った結果、教育に重点を置きつつ、より総合的に気候変動のジェンダーによる影響について焦点を当てることになった。彼女たちは、自分たちのコミュニティで同じくらい重要だと考えている他の気候変動問題を取り上げるため、考慮の範囲を広げることを選んだ。調査の焦点は教育からさらに広がったが、提起された問題の多くは究極的には相互に関連しており、互いに切り離して考えるべきでないからだ。

この調査は、気候変動が女の子の生活と未来をどのように変えていくのかについて、彼女たちの見解や生活体験を通して理解を深めるための証拠基盤を構築しようとするものである。また、質の高い教育を妨げる要因としての気候変動を含め、女の子とユース女性が直面する気候関連の緊急課題に効果的に対処することを目指している。

このユニークな視点を通して、人道・開発関係機関、ドナー、政策立案者は、特に気候政策とプロセスを通して、女の子の基本的な権利を実現するために必要な介入について、理解を深めることができるだろう。



方法論

この調査では、FPARの手法を用いて、気候変動の危機、不平等の深化、社会経済的地位の悪化が、社会から疎外されたジンバブエとザンビアのユース女性に、いかに深刻な影響を与えているかについて、証拠を収集した。このアプローチにより、女の子とユース女性は、自分が経験した気候変動の影響を記録できるようになり、それを基に、解決策や変革のための提言をまとめた。

思春期の女の子やユース女性は、調査プロセスのすべての段階に関わった。また、最終報告書への貢献も含め、ツールや質問票へのフィードバック、データ収集や分析の機会も与えられた。調査員は、キーワードや設計、データ収集からはじまり、データ分析、ライティングに至る3つのワークショップを通じて研修を受けた。



ジンバブエのユース女性調査員が、希望の木に未来への願いを添えている。

調査員は、ワークショップやフィールドワークを含む調査プロセスを通じて、プランのメンター5人からサポートを受けた。メンターは、女の子やユース女性が快適に過ごせるように配慮するほか、コミュニティで行われたすべてのワークショップやデータ収集の際に、彼女たちに付き添い、説明を求められたらその場でサポートできるようにしていた。4つの言語に対応しなければならなかったジンバブエでは、メンターの1人がワークショップ時の翻訳のほか、調査ツールや調査結果の翻訳など、追加の任務を負うことになった。その後、ユース女性調査員は1ヵ国あたり80人の思春期の女の子を対象にデータ収集を行った。

調査の内訳:

国	調査対象地区	プランメンター	ファシリテーター／女の子とユース女性調査員	思春期の女の子（14〜19歳）
ジンバブエ	場所1 – Tsholotsho地区	1	4	40
	場所2 – Chiredzi地区	1	4	40
ザンビア	場所1 – Chisamba地区	1	4	40
	場所2 – Chembe地区	2	4	40
合計	4拠点	メンター5名	ファシリテーター／女の子とユース女性調査員16人	調査に参加した思春期の女の子160人

FPARのプロセスでは、ユース女性を自分たちの体験を共有し、互いに学び合うプロセスに積極的に参加させている。これは、研修開始当初から変わらない方針だ。研修で常に強調されたのは、**ユース女性は調査の対象ではなく、知識の生成者**であること、したがって、調査の焦点は彼女たちの物語と経験、そして自分たちが生きて目撃している現実を彼女たちがどう解釈しているかに当てられる、ということだった。FPARのプロセスには、フェミニズムの原則をめぐるさまざまな体験や、異なる意識レベルへの理解を織り込んだ、研修プログラムの開発も含まれている。

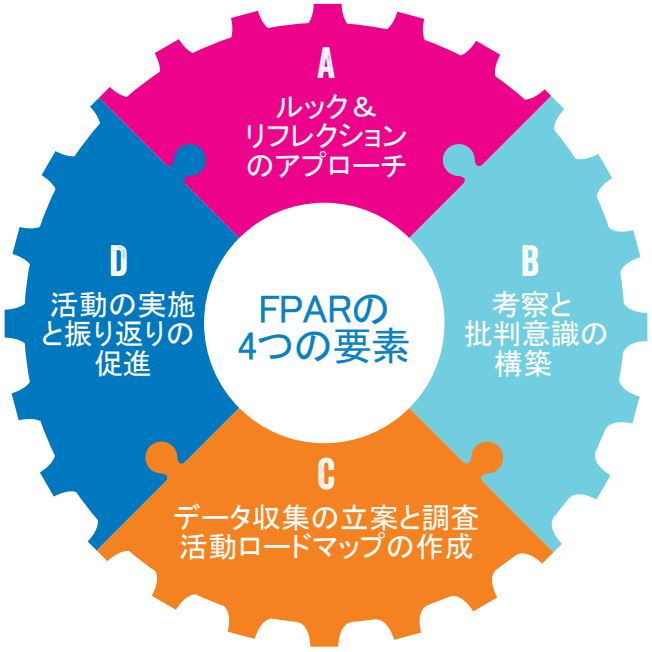
このワークショップは、メンターとユース女性の能力を強化するだけでなく、浮かび上がったテーマを調査や今後の考察に活かすために共同作業のプロセスに組み込む機会にもなった。また、このプロセスでは、FPARメソッドの重要な要素である批判的意識を醸成する方法として、フェミニスト・ポピュラー・エデュケーションにも焦点を当てている。

ユース女性は、フェミニズムの主要な原則を理解し、それを自分たちの生活とどう関連づけるか、同じ枠組みを使って自分たちを取り巻く世界の権力をどう解釈し分析するかを学んだ。FPARのプロセスでは、集団的なプランニングを促進することも重要で、ワークショップでは特に、調査に向けたロードマップを作成し、さまざまな活動をどのように調整するかを共に計画することに、重点が置かれた。

調査を通じて、女の子とユース女性は集団として、抑圧的な権力、不平等、暴力の根本原因を特定した。また、これらの問題の体系的な性質を十分に検討した上で、確かな分析フレームを作成した。FPARは、知識の生成は決して中立的なものではないという理解に根ざしている。したがって、この調査アプローチはユース女性が自由に、そして自身のエンパワーメントの維持につながるようなやり方で、自分たちに関わる問題を調査できるようにしている。

これは、ユース女性たちがFPARとは何か、なぜそれが調査手法として重要なのかという基本概念を理解し、考察するための基礎となるアプローチである。

ここで重要なのは、さまざまな差別の要因が組み合わさった交差性を思い起こすことだった。そのためには、声や差異を尊重し、新しい表現方法を模索し、再帰性（調査する側が設定する議題や仮説、個人的な信念や判断、行動などがその調査に与える影響）なども考慮する必要があった。また、FPARのプロセスの中で、ユース女性参加者の情報や知識から生み出されたさまざまな形の活動を評価することも重要だった。



FPARのプロセスがいかに変革的であるべきかという本質を考えると、フェミニズムの明確な理解に根ざした意識を育むことが重要だった。例えば、権力や不平等の問題、それらがどのように争われ、ユース女性たちが置かれている現実に、どのように影響を与えているのかということなどへの意識だ。
このプロセスによって、若い女性たちは、自分たちのコミュニティで集めた問題や情報に対する考え方や取り組み方を形成していった。

FPARのプロセスでは、データ収集のためのロードマップ作成にあたって、参加者の存在や熱意、アイデア、感情が反映される集団的プランニングを確実に実施するようにした。

プロジェクト・メソッドの5段階プロセス



ツールと説明会 知識・態度・慣行（KAP）調査

FPARツール
調査の共同設計

研修
データ収集

収集分析
行動計画

アウトプットと
アドボカシー計画



将来への希望を描く地域の女の子たち（ジンバブエ）。

調査にあたりいくつかの制約があったが、その大半はCOVID-19に関連するものだった。データ収集を予定していた時期の感染率を考慮し、当初の調査方法は、思春期の女の子が接触する人数を最小限に抑える方向に変更された。また、ファシリテーター16人がそれぞれのコミュニティに戻り、現地でデータ収集にあたる思春期の女の子を訓練する代わりに、ファシリテーター自身が直接、女の子160人からデータを収集することになった。調査対象とするコミュニティの範囲は狭くなったものの、接触した女の子たちが自分の問題や広く家庭レベルの懸念に通じていたため、調査は十分なデータを得ることができた。ジンバブエでは、言語に関する問題が加わった。現地語を使うのを好む参加者もいたため、研修期間中は複数の言語を翻訳する必要があったからだ。

もう一つの潜在的な制約は、この調査に参加した思春期の女の子が、当初は専門的な概念としての気候変動についてほとんど理解していなかったことである。一方、気候変動について説明を受けると、彼女たちはとりわけ降雨パターンの変化の問題に関しては、自分たちのコミュニティにどのような影響があるのか理解を示した。気候変動の専門的な定義に対する理解が限られているため、当初は、気候変動が思春期の女の子にどのような影響を与えるかを説明することが難しかった。しかしながら、参加型手法によって進められたプロービング（より突っ込んだ質問を投げかけることで答えを引き出す手法）による対話を通じてて、彼女たちは気候変動が自分たちに与える影響を理解し、説明できるようになった。また、専門的な定義や気候変動の影響についての理解が限られていたからこそ、思春期の女の子たちはこの問題を新鮮な目で見ることができた。その結果、これまで見逃していたかもしれない特定のニュアンスを調査で拾い上げることができたという点も指摘しておきたい。制限事項の詳細については、テクニカルレポートを参照。



中央州の4人のユース女性調査員：Idah、Penelope、Mwaka、Graceと、プラン・インターナショナル・プログラム・マネージャーのDolly Chanda（中央）。

ユース女性調査員とレポート共同執筆者たち

この調査は、私たちが中心となって進めたもので、調査過程における私たち個人の経験や、気候変動への個人的な関わり方は、全体の調査結果と同じくらい重要だと考えている。 そのため、この報告書の大きな特徴のひとつは、調査中の体験談を記したことである。以下は、私たちのプロフィールと、そのプロセスおよび調査結果に関する考察の要約である。

ザンビアの調査員のプロフィールと振り返り



MWAKA SIAMAYUWA

年齢>> 20歳
エリア>> Kabwe

「この調査では、若い人たちが自由に互いの意見を共有することができました。新しい人たちと出会い、彼らの生き方を聞くことができて嬉しかったです。家庭での意思決定のあり方や、女の子がどうそれに挑んでいるかを知るのも興味深いことでした。」



PENLOP MAKOLEKA

年齢>> 21歳
エリア>> Kabwe

「ペアを組んだ調査でよかったのは、お互いに補い合えたことです。インパクト解析と適応のツールは、興味深いエンパワーメント情報を与えてくれました。今は、誰もがフェミニストになれることを知っています」



NAOMY NAMUKOKO

年齢>> 23歳
エリア>> Chembe

「すべてが提供され、女の子たちが物語を共有するこのプロセスに参加できて、よかったです。すべてをまとめた日記をつけることで、本当に助かりました。」



GRACE CHIPONGE

年齢>> 24歳
エリア>> Chipemba

「ほとんどの女の子は、私が説明するまでFPARのことを知りませんでした。今、私はコミュニティで『フェミニスト』と呼ばれています。また、車に乗って地域を回るのも楽しかったです」



IDAH SALIMU

年齢>> 24歳
エリア>> Chipembi

「調査の準備は万全で、集めたデータから人々の暮らしぶりを知ることができました、また、私にとって重要だったのは、そこに暮らす人々が、気候変動に適応するための計画を持っていると分かったことです」



PURITY MWEWA

年齢>> 20歳
エリア>> Chembe

「教えてもらった方法でうまくできました。パートナーやメンターがいつも手を貸してくれたので楽でした。今ではみな、私を気候変動のチャンピオンと呼んでいます」



ANNIE NKONDE

年齢>> 24歳
エリア>> Chembe

「私のような者でも調査ができることを知り、とても嬉しいです。今は、気候変動問題への理解も深まりました」



MUSONDA CHIBWE

年齢>> 23歳
エリア>> Chembe

「私は、自分のコミュニティが気候変動について学び、議論を始める手助けをしたことをとても誇りに思っています。この調査を通じて自信がついてきました）」

ジンバブエの調査員のプロフィールと振り返り



THABISILE PREVIOUS MPOFU

年齢>> 20歳
エリア>> Tsholotsho

「参加者が自由に会話に参加できるよう、簡単で利用しやすいツールを用意しました。実際、人々が自分の権利を知っているだけでなく、気候変動に関する知識や経験も豊富なことを知りました」



PATRICIA LISIMATI

年齢>> 27歳
エリア>> Chiredzi

「この調査は関係者に好評でした。母親や女の子たちも、プログラムを通して気候変動に関連するジェンダー問題を話すことができたと喜んでいます。これまで、彼女たちのコミュニティで実施されたプログラムの大半が、ジェンダーをないがしろにしたものだったからです」



IIANDRA NDLOVU

年齢>> 20歳
エリア>> Tsholotsho

「自分の人生で調査員になる日が来るとは思ってもいませんでした。フェミニスト調査員になる機会を得たことで、自分のステータスが上がりました」



GRACIOUS SIBINDI

年齢>> 23歳
エリア>> Tsholotsho

「この調査は、ロックダウン後の数少ない対面式集会だったので、参加者に好評でした。また、コミュニティも集会の準備や女性や女の子のグループ分けに協力してくれたため、スムーズな流れで調査を行うことができました」



BEAULLAH CHIHOSANA

年齢>> 22歳

エリア>> Chiredzi

「参加者は、調査のツールやアプローチを高く評価してくれました。思春期の女の子に会うため学校を訪ねると、特に地理担任の先生たちが参加して、熱心にメモを取っていました」



LIZZINETY MUDZINGO

年齢>> 28歳

エリア>> Chiredzi

「いくつかの学校を訪問したのが新学期1週目だったこともあり、学費未納で放校処分を受けた女の子たちに会いました。これも気候変動が女の子の教育に与える影響のひとつと実感できました」



FAITH MANDUZANA

年齢>> 25歳

エリア>> Chiredzi

「簡単に理解できる独自のツールや手法を使って、とても複雑に思えた気候変動の調査を主導することができました。おかげで、とても力がついた気がします」



NOMAKHOSAZANA MLALAZI

年齢>> 27歳

エリア>> Tsholotsho

「コミュニティが実際には気候変動についてかなりよく理解していて、多くの神話や信念も共有していることに驚きました。そのおかげで、私たちの仕事はとてもやりやすく、楽しいものになりました」

また、このプロセスを通して私たちを導き、私たちも調査員や権利擁護者になれると教えてくれた素晴らしいメンター（指導者）たちに感謝します」

ザンビア



DOLLY CHANDA



EVELYN LUNGU



MWANGO MWENYA

ジンバブエ



PAMELA CHINEMBIRI



MANDY RUKA

プロセスの始まり: 私たちの夢

私たち女性調査員は、調査プロセスの始めに、自分たちの願望を大まかに描く助けとなるビジョニング・エクササイズ（ジャスト・アソシエイツが開発したツールを応用）を行った。

このビジョニングは共通の目標を生み出し、人々に希望や勇気を与え、コントロールする感覚をもたせると同時に、グループに何か目指すものを与え、クリエイティブな発想や情熱を引き出すよう工夫がなされた演習だった。

ビジョニングで示された私たちの願い：



しかし、気候変動は、私たちや地域のユース女性たちの夢を実現する力を脅かしている。



ユース女性調査員の一人が描いたこの絵は、女の子たちの夢を的確に言い表している。

コンサルティングチームによる調査結果の振り返り



ジンバブエのコミュニティでデータ収集をするユース女性調査員。

気候変動によるコミュニティへの影響

ジンバブエとザンビアでは、調査対象の6つのコミュニティすべてが気候変動の影響を受けており、その影響もさまざまであることが指摘されている。最も一般的な影響は、洪水、強風、害虫の増加、降雨パターンの変化、繰り返される干ばつで、天水農業に依存している大半のコミュニティは、こうした天災により食糧難に陥っている。その結果、貧困の女性化[1]が進み、ユース女性、障害者、HIVとエイズ患者など、社会から疎外された人々の脆弱性が増している。

また、土地や資産は男性が所有するという社会規範のもと、気候変動が両国の女の子や女性に与える影響はさらに厳しいものになっている。ジェンダーや年齢、障害による差別に直面している社会的、地理的に不利な立場にある人々は、気候変動の影響をとりわけ強く受けている。彼らは、他の人々と同じように、資源や情報、教育、意思決定にアクセスすることも、それを自分でコントロールすることもできないからだ。コミュニティにおける男女間の力関係はさらに不平等なものになっているなど、気候変動は既存の不平等を助長させる要因になっている。

1. 貧困の女性化とは、女性が男性よりも貧困の発生率が高く、その貧困が男性よりも深刻であることを意味する。



分析ワークショップに参加したChisambaとChemeのユース女性調査員（ザンビア）。

気候変動がユース女性に与える影響

調査に参加した思春期女の子やユース女性は、気候変動がもたらす複数の影響によって、ユース女性の脆弱性が高まっていると指摘している。

その中でも特に多いのが、強制された早過ぎる結婚だ。彼女たちは、気候変動による経済面・生活面の打撃を受けた結果、多くの女の子が学校を辞めさせられ、早過ぎる結婚のリスクに晒されやすくなっていると主張した: 家族から重荷とされ、年上の男性と結婚させられることもある。

右のケースは、Luapula州の若い女性の一人が、パイルソートの演習中に語ったものである[2]。このストーリーは、しばしば強制を伴う早過ぎる結婚の問題について重要な洞察を与えてくれる。

Luapla州に暮らす女の子の1人は、親に結婚を強要された。背景には、この地域社会で確立された文化的、政治的影響力のほか、さまざまな要因がある。

文化的に、子どもがいつ誰と結婚するかも含め、家庭内のあらゆる重要な決定を下すのは父親だ。コミュニティの大半の女の子と同様、9年生の彼女は厳しい状況に置かれた。思っていたよりも早く、親が彼女を結婚させようとしたのだ。

彼女の最善の利益や、教育を続けて夢を叶えたいといった願いを考慮することなく、父親は彼女に、「教育は終わった。たとえ10学年に進級する資格があったとしても、この決定は変わらない」と告げた。あいにく、コミュニティはCOVID-19のパンデミックに見舞われ、学校は無期限の休校となっていた。さらに妊娠したことで、彼女の立場は一層弱いのもになった。

父親は夫となる男性の家族から「損害賠償（女の子を妊娠させた時に、男性が払うお金）」を受け取った。このお金を受け取ることは、双方の家族が子どもたちの結婚に合意したことを意味する。状況を掘り下げると、コミュニティは最近洪水に見舞われ、多くの作物が打撃を受けたという。

住民たちが収入源を失うなか、父親は家計をやりくりするために娘を手離すことを正当化したのだ。

2. パイルソートとは、家庭内で誰が重要な意思決定の権限を持っているのかを探り、意思決定をより平等にするにはどうしたらよいかを議論するためのツールである。レジリエンスを高める手段として用いられる。

ユース女性調査員らによる調査結果



分析ワークショップに参加したChisambaとChemeのユース女性調査員たち（ザンビア）

これらの地域の女の子たちは、雨季が遅れて作物が不作になることもあれば、雨が多すぎて作物が不作になることもあると指摘した。総じて言えることは、調査したすべての地域で、年間を通じて気温が上昇しており、過去最高気温が最近の夏に記録されているということだ。In また、Luapula州では、洪水や干ばつなどの異常気象が、家畜の損失、建物の損壊、水の汚染、マラリアなどの疾病の大流行を引き起こしている。極端な多雨と少雨の影響を示す以下の2つの引用からも気候の過激化がうかがわれる。

「今年のChipembi村の雨はひどく、橋からバスが流され、何人もの乗客が重傷を負ったほどです」

FGD CHIPEMBI

「あまりにも雨が少なくて、今では動物と人間が同じ水を使っているため水が汚染され、健康や月経時の衛生を維持するのが難しくなっています」

FGD CHIKONKOMENE

家庭用の水源にまで水の汚染が及んでいることで、各コミュニティが洪水の影響を実感していることが、ハザードマップの作成を通してわかった。洪水は車やバスを押し流し、人命を奪うこともあるが、その影響はそれだけではない。各コミュニティにはのあるしっかりとした構造の市場がなく、商売は大雨に大きく左右されることも分かった。

調査の結果、Mambilimaでは、気候変動やその影響とは結び付くことが少ない、興味深い発見があった。Mambilimaに暮らす思春期の女の子たちは、「自分たちには社会とつながる施設がなく、コミュニティの中で人間関係を広げる社交の場として教会は大切だ」と話した。洪水が発生すると教会に行かれなくなるが、それでも何とかして教会に行こうとする。こうした人々の気持ちが洪水に対する脆弱性を高めている。至るところで洪水が発生して移動に危険が伴うとしても、住民たちはとにかく教会にいこうとするのだ。



ジンバブエのワークショップでマスターズハウスの演習を行うユース女性調査員たち
Just Associatesのツールを活用

一般的に、洪水のような気候変動の影響は、女の子たちの学校出席率の低下に表れることがわかった。**Mambilima**、**Kasoma**,、**Milishi**、**Temfe**などの地域では学校の数が増えているが、洪水で道路や橋が破壊され、学校に通学できないことがよくある。女の子とユース女性は一般的に、ワンピースやスカートを着て水かさの増した川を渡るのは難しく、ましてや月経中であれば、さらに難しくなる。生理用ナプキンやそれに代わって月経中に使用しているものを濡らすリスクを冒してまで、増水した川を渡ることはできないのだ。「男の子たちにはそういう悩みがない」、と女の子たちは語った。

その他、気候変動が生む経済的な問題の影響が、間接的に女の子に及んでいる例として、金銭や物品目的の売春や性交渉が行われていることがわかった。コンゴ民主共和国との国境に近いMilishi村は、運搬用トラックの拠点となっており、多くのドライバーが存在するため、気候変動やその他の要因により、他に生き延びる方法がないために、女の子や若い女性が売春や性交渉を行うケースが増加している。

フィールドワークで女の子たちと交流する中で、家が洪水に見舞われた際に、避難先で彼女たちたちが虐待を受けることも少なくないことがわかった。この種の虐待事例は珍しいものではなく、通報されずに無視されることも多い。ある女の子はこう話してくれた:

「雨が降って家が壊れると、親が私たちのために近所に避難場所を探してくれる。でもそこにいる間、私たち女の子は避難先の家に住んでいる男の子や男性につけこまれてしまうのです」

さらに、話を聞いた女の子たちからは、気候変動で水が入手しにくくなっており、これが月経時の衛生にも影響し、学校で自信が持てなくなり、月経中ずっと家に引きこもったり、学校に行かれなくなってしまうこともあると聞いた。また、水が入手しにくくなると、遠くまで水汲みに行くなど家事に割かれる時間も増える。加えて、遠くから水を汲みに行くため、虐待や性暴力のリスクも高まる: 同じ水汲み場を利用する牛飼いたちが、彼女たちに性的嫌がらせをすることも少なくない。教師が女の子に水汲みをさせていることも報告されており、学業に集中する時間が少なくなっている。また、家事をしている間に教師に虐待されるリスクもあると、女の子たちは語った。

また、洪水の被害を受けやすい地域では、診療所などのサービスへのアクセスが損なわれており、若い女性のコンドームの入手など、避妊に影響があることがわかった。

ザンビア 私たちが学んだ主な対応策

調査に参加した女の子たちとの話し合いから生まれ、すでに実施されている対応策には、**Chipembi**での集水・保水タンクの設置と、**Luapula**の沿岸から離れた場所での家屋の建設がある。

また、**Luapula**州では、キャッサバやサツマイモなど干ばつに強い作物を栽培し、野菜やキャッサバ、ササゲなどの食品を保存・乾燥させていることも報告された。

Mambilimaでは気候の変化に適応した農法もいくつか対策の一つとして報告され、Luapulaでは高台に作物を植えることが適応策として挙げられた。ChikomeniとLupaniの他の女の子たちは、すでに森林破壊の影響を受けている地域での植樹について話してくれた。また、干ばつに見舞われた地域では、各コミュニティが取水方法について指導も受けている。

また、経済的な生計を立てるための適応策も紹介された。Chipembiでは、縫製や理髪など他の技能の習得も現在進行中の取り組みの一例として報告された。TemfeとKasomaの女の子たちは、生計を立てる手段の1つとして、鶏の飼育の経験を紹介した。

ザンビア：女の子とユース女性に関わる意思決定に気候変動が与える影響

気候変動を背景に、各コミュニティの家父長的な性質から、ユース女性が家庭やコミュニティレベルの意思決定に参加できるようなケースは、たとえあったとしてもほとんどないことがわかった。女の子やユース女性のために行われる多くの決定が、彼女たちに悪影響を及ぼしている。女の子とユース女性たちが親に強制的に結婚させられるのは、最も顕著な例と言える。また、農繁期には牧草地を求めて、洪水時には一時的な避難場所を求めて、家族が遠方に移住する際の決定も女の子とユース女性抜きで行われることが多い。

関係者らによる気候変動への取り組み

参加者とともに調査関係者らの分析をした結果、私たちは気候変動への適応や軽減について各コミュニティと協働している組織がほとんどないことに気づいた。その数少ない組織の1つが、気候変動の影響に対応して、女の子たちが遠くまで水汲みに歩かずに済むよう、掘り抜き井戸の掘削を続けている**プラン・インターナショナル**だ。プランは、生理用ナプキン、石鹸その他、特に気候変動の影響で清潔な水が入手できない場合でも、月経時の衛生を維持するために、ユース女性に必要な用品が入ったキットの支給を続けている。**農協**も困窮家庭への支援を行っている。さらにKasongo Chomba Foundationでは、気候変動による経済的打撃に対応するため、起業家精神の向上に焦点を置いた取り組みが行われている。



長期化する干ばつの壊滅的影響を受けながら生活する17歳の女の子とその家族
注：この写真は調査参加者のものではありません。

気候変動：ジンバブエに暮らす私たちの場合

ChiredziとTsholotshoに暮らすユース女性として、私たちは乾燥化と人口増加による水の需要の高まりを目の当たりにしてきた。地下水への依存が非常に高く、塩水侵入が進む一方で、環境管理が機能しておらず、監視体制の不備もある。私たちはこれらを、気候変動の影響を悪化させる要因ととらえた。また、2016～17年にジンバブエを襲ったサイクロンDineoを境に、年間気温が変化していることに注目。現在、私たちのコミュニティでは洪水が発生しやすくなっている。2019年には、50家屋が洪水で破壊され、Muhlanguleniの2人の生徒が亡くなった。データ収集の際にインタビューした女の子の一人が報告した:

「Chiredziでは、同じ耕作期にものすごい豪雨と日照り続きの両方を体験するというすさまじい振れ幅が気候パターンに生じています。そのため、低地では洪水が発生する一方で、高地では強風が吹き荒れ、各コミュニティに多大な負荷がかかっています」

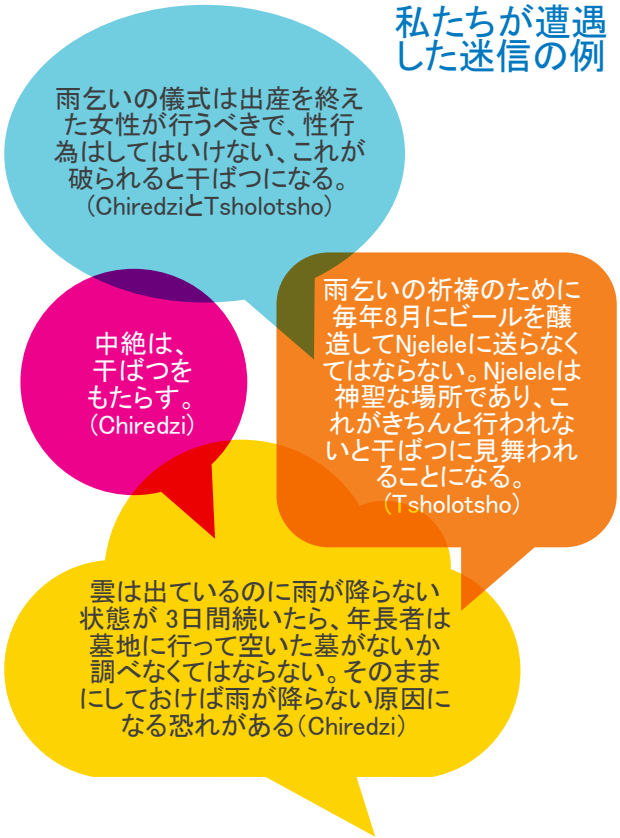


A14歳の女の子とその家族は、サイクロンIdaiで家が倒壊し、すべてを失いました（ジンバブエ）
©Plan International
注：この写真は調査参加者のものではありません。

Tsholotshoでは何年間も極端な凶作が続いている。また、気候変動の影響により、害虫やイナゴの発生も増えている。

どちらのコミュニティでも、気候変動の原因をめぐる様々な信仰と迷信に出会った。例えば、コミュニティでの雨乞いの儀式では、男性の参加に制限はないが、女性は年齢が高く、性的に活発でなく、出産適齢期外でなければならないなど、ジェンダー的な迷信もある。気候変動の悪影響が及べば、女性たちが非難され、さらに困難な状況に追い詰められ抑圧されることになる。

私たちが遭遇した迷信の例



この調査を通して、気候変動によるジェンダー不平等の増大が明らかになった。気候変動の激甚化を背景に、女の子と女性たちが性的暴力と搾取の被害を受けやすくなっていることがわかった。例えば、ChiredziとTsholotshoではともに、女性と女の子たちは洪水など異常気象の間は、テントなど仮設シェルターに強制的に収容される。気候変動による緊急事態で、学校は頻繁に休校となり、教育の継続も困難になる。加えて洗面用具も衣類も照明も、女の子たちは他に比べて入手が難しく、ここでもその脆弱性が高まっている。

現地で調査した結果、洪水発生時に通学できなくなることが、女の子の教育と彼女たちの安全意識にどう影響しているかが見えてきた。授業時間中に川が氾濫した場合、女の子たちは強制的に教室で待機、あるいは夜間に移動をすることになっている。インタビューを受けた思春期の女の子たちは、「教室での待機中も夜間移動中も性的虐待を受けるリスクが高まるため、身の安全を感じられない」と語った。

Chiredziでも、思春期の女の子たちは同様に、「天気が良くなって移動可能になるまで、学校で待機させられる」と語った。あまりの悪天候で帰宅が困難な時は、教室で寝なくてはならない場合もあるという。こうした状況で、体罰や性的虐待を受けるリスクは高まる。

Tsholotshoでは、気候変動による経済的苦境が、CEFMUのリスクを高めていると報告された: 住民たちは少しでも食い扶持を減らそうと、年端もいかない娘を嫁にだす。そうなると自動的に学校を退学することになる。あるいは、経済的に苦しいために売春や性交渉を始める女の子たちも、やはり中途退学することになる。(Chiredziではこれを裏付ける証拠はなかった)。 彼女たちはこれまでの洪水で、学校や大学、通学に使う道路や橋といったインフラを破壊された経験を持つ。

2019年にサイクロンIDAに見舞われたChiredziでは、女の子たちは不適切で不衛生、かつ低俗な宿泊施設に滞在せざるを得ず、男の子や年配の男性と寝室を共にすることになった。こうした状況下で、女の子たちは虐待、そして10代で妊娠するリスクにさらされ、ここでもやはり学校教育が受けられなくなり、非常に多くの意味でその後の人生を左右しかねない状況に陥る。

Chiredziでは、男の子にはできても、学校と家との往復に水かさの増した川を泳いで渡ることができない女の子がいることがわかった。そうした場合、女の子は学校まで数キロ(両地区とも最高10〜15 kmになる場合もある)歩かなければならず、授業が始まる前にすでに疲れ切ってしまう。Chiredziでは、GulugiからNdaliの中学校まで最高15キロ、GulugiからMupingaの中学校まで最高20キロもの距離を歩く者もいるという。

気候変動は、非常に多くの形で教育に影響をおよぼしている。

1 気候変動により、食料の確保が難しくなる。親の関心は、子どもを学校に送り出すことから、食料調達に移ってしまう。

2 親が子ども全員の学費を払えない場合、男の子を優先する。

3 子どもたちは、気候変動による異常気象に耐えながら授業を受けなくてはならないが、貧しい家庭の女の子たちは靴、靴下、ジャージなどの防寒具を買うことができない[3]。

4 家事をするのは授業の前か放課後であるため、宿題や放課後の勉強をする時間がない。2021年3月、Gujuli村[2]で、12歳の女の子Selina Sumbaniが、学校の授業時間中にイナゴを取りに行かされ(気候変動によって発生が増加している)、帰ってこなかったと思春期の女の子たちは報告している。彼女はまだ行方不明である。

5 水が入手しにくくなり、女の子たちの月経時の衛生に影響が及んでいる。女の子たちは、特に水が入手できない場合、月経期間中学校を休む。生理用ナプキンも肌着もなく、暑い中を20kmも歩かなければならない場合、女の子たちは家にいて生理が終わったら学校に行く方が快適だと思うケースもある。

他にも、水や薪、果物を求めて遠くまで探しに行く場合、女の子たちが性的嫌がらせにあうリスクも明らかになっている。WASH(水と衛生)のインフラが不十分な仮設避難所から出られないことで、女の子と女性たちは性的暴力やレイプに加えて病気にかかるリスクにもさらされている。社会規範や凝り固まった文化的信念のため、この2つのコミュニティではレイプは性的暴力とはみなされない。以下はある女の子の声である:

「文化をかたくなに守る伝統的指導者たちは、女性や女の子たちがレイプされたと通報しても信じず、同意の上でのことだと頭から思い込んでいます。こうした思い込みがあるため、加害者らに責任を問い、女の子たちが伝統的な裁判で正当性を認められることが困難になるのです」

3. この点についてインタビューした女の子たちは女の子についてのみ話しており、男の子たちへの影響についてはわからない。.

ラジオ・テレビ・新聞やソーシャル・メディアへのアクセスが限られているため、異常気象に対する女の子たちの脆弱性は高まっている。ChiredziでもTsholotshoでも、洪水警報などが事前に発出されることはほとんどない。女の子たちの報告では、この種のニュースは、テレビやラジオのある地元の店や酒場に行く機会と時間のある父親や兄弟から時々聞く程度で、それも欧州サッカーのシーズン中であれば、ということだった。

ChiredziとTsholotshoにおける主な対応策

Chiredziでは現在、政府がルーサン乾草を植えてChilonga周辺をグリーンベルト化する計画を進めている。しかしコミュニティでは、このプロジェクトが実現すれば、1万2000以上の世帯が土地を失い、すでに気候変動による貧困化の進む各コミュニティの脆弱化に拍車がかかることになる、という不満の声が広がっている。

ChiredziでもTsholotshoでも、農家はトウモロコシ、シュクビエ、モロコシ、ピーナッツ、ラウンドナッツ、スイカ、カボチャ、ヒマワリ、mashamba、綿、bhondasiなど、干ばつに強い作物を栽培している。しかし、こうした小型穀物は、ほとんどの場合自給用にしかならず、授業料などの費用を賄えるほどの収入にはならない。**Chiredzi**では、農家はビール・清涼飲料メーカーDelta Beverages向けのトウモロコシを栽培する契約農家としていくらか収入を得ている。

政府も、地表水を供給するため、ダムのような貯水池の建設計画を立てており、その1つがRunde Tendeダムだ。Tokwe Mukosiダムは最近完成した。

ChiredziとChilongaのコミュニティでは現在、穀物栽培に代わって畜産への転向が進んでいる。Lowveldは、丈夫なMashona牛、ヤギ、ブタ、ヒツジ、ロバ、ホロホロチョウ、ニワトリなど、過酷な気象条件にも耐えられる家畜の拠点である。また、各コミュニティが力を合わせて、レンガ製造のために切り倒した木々を元通りにする森林再生に取り組んでいる。環境管理法の施行に向けて政府が設置した規制機関Environmental Management Agency(EMA)も、木の伐採者に対する厳しい罰則制度を導入した。

女の子とユース女性に関わる意思決定に気候変動が与える影響

TsholotshoとChiredziでの調査を通して、私たちユース女性調査員は、気候変動がもたらす問題は、特に女の子と女性の福祉にまで及んでいることに気づいた。



ザンビア中央州のユース女性調査員たち。Idah、Penelope、Mwaka、Graceと、プラン・インターナショナル・プログラム・マネージャーのDolly　Chanda（中央）。

この2つの地域では、食糧と収入を得るために耕作する自給自足農家がほとんどだ。インタビューした思春期の女の子たちは、「収穫量が上がらなくなると、子どもたち、まずは女の子が学校に行かせてもらえなくなる」と語った。また前述の通り、思春期の女の子たちは、気候変動によって薪や木の実集め、バッタ捕り、食糧配給の列に並ぶなど、ジェンダー（社会的性別）による役割が増えている実態も浮き彫りにした。

Chiredziの思春期の女の子たちによると、「学校に通っている2人の子どものうち、どちらが学校を休んで支援物資の列に並ばなくてはならない場合、列に並ぶのはいつも、普段料理や家事全般を担っている女の子だ」と語った。女の子たちの話はさらに、気候変動の影響で経済的に苦しくなると、親が食料と引き換えに娘を嫁に出す家庭がある実態も明らかにした。Chiredziのある女の子は、女の子たちが常に嫁に出る覚悟と準備をどのように整えておかなくてはならないか説明してくれた。

「Chiredziでは今でも、女の子たちはいつでも結婚できるように、大人になるための儀式に強制的に行かされます。これは、Ukombaと呼ばれる習慣で、この儀式に行くために実際学校を休む女の子もいます」

関係者らによる気候変動への取り組み

この調査を通して、気候変動の危機の渦中にいることを実感しているコミュニティの声に応えて取り組みを進めている組織がいくつかあることがわかった。その1つ**Agritex**では、市場へのアクセスに加え、干ばつに強い作物の栽培支援を行っている。また、**Campaign for Female Education(CAMFED)**では、授業料・制服・生理用ナプキンを女の子に支給するプロジェクトが行われている。**保健省**も、気候変動により感染状況が悪化しているマラリアの検査に村の保健員と連携した支援を行っている。

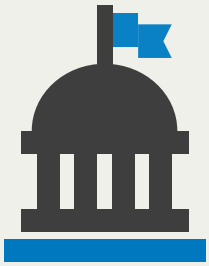
私たちの提案

全般的な提案

森林伐採、土壌にダメージを与える上に木々の伐採を必要とするレンガ造りの中止など、環境を守るより良い方法へと確実に舵を切るために、行動と習慣を変革し、気候変動が生む喫緊の課題への取り組みに向けて各コミュニティが行動を起こすよう提案する。これには個人レベルでの行動変容が必要となる。私たち一人ひとりの行いが気候変動の悪影響につながっていることは明らかである。



一人でも多くの若者が気候変動について学びと理解を深め、各コミュニティの中で行動する必要がある。



各自治体は、気候変動が女の子やユース女性に与える影響、特に通学と出席に与える影響を緩和させる取り組みをするべきである。提案には、洪水の発生しやすいコミュニティ近隣での学校増設、季節の移り変わりに合わせた学校スケジュールの変更、分校の設置が含まれる。さらに各自治体は、気候の影響と気候変動への適応に関する地域住民の知識に基づき、各コミュニティがその影響を軽減する戦略の立て方に取り組む気候変動教育を学校カリキュラムに確実に取り入れなければならない。



女の子とユース女性の脆弱性の改善を実現する役割は、**コミュニティ**と住民が担っていると、ユース女性として実感している。これは、女の子とユース女性の教育と福祉を優先し、気候問題に直面して困難な状況にある時も娘を嫁に出す選択をしないことで実現できるはずだ。



市民社会組織その他**民間セクターを含む組織**に対しては、気候変動に対するコミュニティのレジリエンス（回復力）を高めるプログラム設定と、気候変動の影響を受けにくい代替の生計手段づくりを提案する。



国別の提案: ザンビア

課題	対象となる関係者	提案
就学率の低さ	教育省 水資源開発・衛生・環境開発省	生徒が川を渡らずに済むように学校を増設する。 季節の移り変わりに合わせて学校スケジュールを変更する。 橋と排水溝をつくる。 洪水が起きやすい地域に分校をつくる。 女の子の授業料をまかなうための奨学金を提供する。
水へのアクセス不足	水と衛生省	掘り抜き井戸を掘削し、安全で清潔、かつジェンダーに配慮した給水システムと貯水タンクを提供する。
生計維持の失敗	ジェンダー省 森林省	気候変動に影響されない起業家精神とスキルを女の子たちに身に着けさせる。 森林伐採を止めるよう人々に働きかける。
農作物の損失	農業省 森林省	干ばつに強く、水にも強い植物を提供する。 森林伐採に関する政策を実施する。 植林と森林再生を奨励する。
インフラの破壊	インフラ開発省	質が高く安全でジェンダーに配慮した、気候変動に強いインフラを提供する。
水の汚染	水と衛生省 保健省	安全で清潔、かつジェンダーに配慮した給水システムを提供する。 塩素を支給する。
避難中の女の子の脆弱性	防災・減災課	洪水その他災害の被災者に安全でジェンダーに配慮した仮設シェルターを提供する。 男女別のトイレや十分な照明など被災者を保護する機能に加え、必要時には通報や苦情を簡単に寄せられる問い合わせシステムも含む。
マラリアの拡大による学校出席率の低下	保健省	蚊帳の支給を増やす。 ジェンダーに配慮した手段で、蚊帳の下で眠る重要性について情報を提供する。
	水産省	漁業法に定められたガイドラインを実施し、漁業従事者がマラリア予防用の蚊帳まで使わずに済むように十分な支援を保証する。
	伝統的な指導者たち	マラリア予防の重要性を住民が理解し、蚊帳の下での就寝が広がるよう、コミュニティに働きかける



国別の提案: ジンバブエ

課題	対象となる関係者	提案
通学距離が10キロに及ぶ場合がある環境下で、洪水やサイクロンなど異常気象発生時に通学が不能となる問題	教育省 地方議会 議員 評議員	地方議会によるジェンダー関連予算の計上：これは、女性と女の子の不安と社会的ニーズを反映した内容でなくてはならない。（安全な水の提供、常識的な通学距離圏内における学校建設、道路・橋の建設・改修、保健ケア施設の設置、女性の経済的脆弱性を改善するプロジェクト） 女の子の交通費と授業料を賄うための奨学金を提供する。 コミュニティ開発資金（CDF）を上記目的のために使用する。
男の子と女の子の間の不平等なジェンダー的役割	両親 NGO 教育省	各NGOの支援でジェンダー平等に関する家族の能力を高める。 教育省はジェンダー平等と気候教育を初等・中等教育カリキュラムの柱の1つとして盛り込む。
ジェンダー平等に関する情報へのアクセスと洪水・干ばつなど気候変動による災害の警報システム	情報省 モバイルサービスプロバイダー 自治体の市民防災課 気象庁	携帯電話の電波が届かず圏外になる地域でも個人用や家族が持つ携帯電話所有者に情報を送れるよう、女の子たちがブースター装置の設置を議員・地元評議員に働きかける。 情報省は、ラジオ・テレビ放送地域を拡大する。
気候変動による緊急事態下とその前後に発生したジェンダーに基づく性暴力の被害者に対する法的・行政的救済策の欠如（食糧へのアクセスほど重要な優先事項とみなされていない）	ジンバブエ共和国警察（ZRP） 法務省 NGO 伝統的な指導者 教会指導者	女の子たちが各NGOと連携してZRPの各地域事務所における被害者支援課（VFU）の設置・稼働に向けた支援を行う。 女の子たちがジェンダーに基づく暴力（GBV）に取り組む地元NGOと連携して被害者の相談窓口を設置する。
女の子と女性の経済的脆弱性への取り組み	地元NGO 地元評議員	気候変動に対応した女性と女の子対象の経済活動（プロジェクト）にCapacity and Delivery Fund（CDF）その他基金が優先的に取り組むよう、女の子たちが地元議員に求める。 農村地区評議会（RDC）の予算審議会に出席し、気候変動に対応した収益の見込める女性・女の子対象の経済活動（プロジェクト）への投資を求める。

ANNEX 1: ADVOCACY STRATEGIES

These advocacy strategies were discussed with the young women facilitators in the analysis workshops, the young women facilitators want to focus their advocacy efforts from this research with local stakeholders and to make changes in their local context.

ADVOCACY STRATEGIES FOR CHIKONKOMENE, CHIKOBE, CHOWA AND CHIPEMBI

CHALLENGES/ ADVOCACY ISSUE	STAKEHOLDER	DESIRED CHANGE	KEY MESSAGES	KEY INFLUENCERS	CHANNELS OF COMMUNICATION
Low school attendance	• Ministry of Education • Ministry of Water Development, Sanitation and Environmental Development	• Build more schools so that pupils don't cross rivers. • Reschedule school calendar. • Build bridges and drainages.	• Even with Affirmative Action, there is low school attendance by girls due to floods and other extreme climate events.	• Community Chief	• Dialogue meeting
Limited access to water	• Ministry of Water and Sanitation	• To drill boreholes and provide sustainable water systems and storage.	• I need safe access to clean water, it's my right.	• Plan International Zambia • Water Aid • World Vision (NGOs)	• Stakeholder Meeting
Failing to maintain a livelihood	• Ministry of Gender • Ministry of Forestry	• Empower girls with entrepreneurial skills that are not sensitive to climate change. • Encourage people to stop cutting down trees.	• I need skills for a sustainable livelihood.	• Community Leader and NGOs (Plan International Zambia)	• A detailed letter
Loss of Crops	• Ministry of Agriculture • Ministry of Forestry	• Provide drought resistant and water-resistant plants. • Enforce policies on deforestation. • Encourage afforestation and re-afforestation.	• Large portions of crops are destroyed due to floods and drought.	• Camp Officers of the community	• Detailed Letter
Destruction of Infrastructure	• Ministry of Infrastructure Development	• Provide high quality climate resilient infrastructure.	• We need high quality, strong, reliable and gender-sensitive infrastructure.	• Disaster Management and Mitigation Unit	• Dialogue Meeting
Contamination of water	• Ministry of Water and Sanitation • Ministry of Health	• Provide sustainable and accessible water systems • Provide Chlorine.	• I'm entitled to safe water for good health and hygiene.	• Ministry of good Health	• Stakeholder Meeting
Vulnerability of Girls when seeking shelter	• Disaster Management and Mitigation Unit	• Provide temporal shelter.	• Provide safe, adequate and gender sensitive temporary shelters in disasters to protect girls and young women from gender-based violence.	• Media	• TV programs on local channels e.g., Sunday Interview on ZNBC

ADVOCACY STRATEGIES FOR TEMFWE, MILISHI, KASOMA AND MAMBILIMA

CHALLENGES/ ADVOCACY ISSUE	STAKEHOLDER	DESIRED CHANGE	KEY MESSAGES	KEY INFLUENCERS	CHANNELS OF COMMUNICATION
School dropout due to floods	• Ministry of Education	• Build more schools • Seasonal Calendar • Provision of boats • Satellite School • Educational financing for girls All the above should be done in consultation with girls	• Education for girls should be prioritized.	• The Media • Traditional Leader • Plan	• Radio programs • Dialogue
	• Disaster Management	• Provide relief food and gender sensitive sanitary facilities	• We need food and gender-sensitive dignity kits during times of emergencies.	• Traditional Leaders	• Meeting
	• Road Development Agency	• Construction of roads. • Construction of bridges.	• Safe roads and bridges for better education.	• Traditional Leaders	• Dialogue
	• Meteorology Department	• Provide accurate information on weather.	• Information is power to us as girls.	• Media	• Media
	• Ministry of Health	• Provision of chlorine.	• Our health matters.	• Traditional Leaders	• Meeting
Low attendance in school due to droughts	• Ministry of Agriculture	• Growing drought resistant crops (Cassava and sweet potatoes).	• Think beyond now.	• Traditional Leaders	• Meeting
	• Plan	• Drilling boreholes.	• Water is life.	• CDF • Community Members	• Community Mobilization
	• Forestry Department	• Sensitization on reforestation.	• We have the power we can plant more trees.	• Forest Officers	• Meeting
	• Community	• Have alternative source of green energy.	• Promote diversified sources of energy.	• Traditional Leaders	• Drama
Low attendance in school due to increased malaria	• Ministry of Health	• Provision of more mosquito nets.	• We can fight malaria by concerted efforts.	• Traditional Leaders	• Media • Drama • Posters
	• Ministry of Fisheries	• Implement the guidelines in the Fisheries Act.	• Let's act now for a sustainable ecosystem.	• Fishery Officers	• Meetings
	• Traditional Leaders	• Provide information on the importance of sleeping under a mosquito net.	• Let's work together to end malaria.	• Ministry of Health	• Meetings
	• Community	• Keep the surroundings clean. • Burying ditch holes.	• When we as communities face uncertainties such as floods or droughts, my best interest should be a priority.	• Community	• Drama • Posters • Music
Relocation due to farming	• Traditional Leaders	• Sensitization on importance of education.	• Education is key for girls.	• Ministry of Education	• Dialogue
	• Community	• Prioritize education.	• Whenever you see a girl, you should see potential, strength, someone who has a dream, wants to live a fulfilled life. You don't have to see house chores and a wife.	• PTA • Traditional Leaders	• Meeting
	• Plan	• Help construct schools.	• Better buildings better education.	• CDF • Community Members	• Community Meetings
	• Parents	• Encourage their children to attend schools.	• Girls have the power to foster and drive development.	• Traditional/ Religious Leaders • Ministry of Education	• Meeting • Drama

ADVOCACY STRATEGIES FOR CHIREDZI AND TSHOLOTSHO

CHALLENGES/ ADVOCACY ISSUE	STAKEHOLDER	DESIRED CHANGE	KEY MESSAGES	CHANNELS OF COMMUNICATION
Inaccessibility of schools during extreme weather events such as floods, cyclones. Schools can be as far as 10km away	• Ministry of Education • Rural District Council • Member of Parliament • Councillor	• Building of schools in the vicinity of homesteads so that girls do not need to travel several kilometres and cross several rivers and bridges to school. Where it is not possible to build proper schools, satellite schools can be built in the meantime.	• Ministry of Education: Engage Community mentors – community hubs – where they assist children with homework. • Provide reading materials • Build temporary structures • Rural District Councils – build schools • Build bridges. • Build schools close to homes. • MP – Campaign messages to include climate change issues. • Online learning • Councillors – to get donors who can pay fees for children – councillors should prioritize climate change issues in their meetings.	• Radio – Hevoi FM, Great Zimbabwe FM • WhatsApp • Email • SMS • Newspapers • Facebook • Community meetings • Newsletters
Unequal gender roles between boys and girls	• Parents • NGOs • Ministry of Education	• Equal distribution of gender roles between boys and girls • Mainstreaming gender equality in primary and secondary school curricula. • NGOs support girl school dropouts to continue with school.	• Parents to treat both children equally including duties, involve girls in planning for anything in the family. • CAMFED – Continue to pay fees. • Campaign for girls' education. • Depict gender equality in book content, e.g. men as nurses. • Include gender in school curricula,	
Access to information on Gender Equality Early Warning Systems for climate change induced disasters such as floods and droughts.	• Ministry of Information • Mobile Service Providers • District Civil Protection Unit • Meteorological Department	• Women and girls have access to information on impending climate change induced disasters such as cyclones, extreme temperatures such as heat waves, floods. • Communities receive information and knowledge on gender inequalities and climate change.	• Ministry to publish weather conditions in local language, e.g., Shangaan. • Access to mobile phones and internet • Organise face to face meetings in rural areas where there are no TVs or mobile networks.	
Lack of legal and administrative remedies for survivors of gender-based violence and sexual violence before, during and after climate change induced emergencies (not taken as important priority is access to food)	• Zimbabwe Republic Police • Ministry of Justice • NGOs • Traditional Leaders • Church	• Survivors of gender-based violence get healing and justice. • Perpetrators of gender-based violence get rehabilitation.	• Take GBV seriously. • Stop abuse of women – fair judgement: "Rape is not believed they just say it was consensual they consider that they are in love." • Early warning system should be continuous, climate is changing District Child Protection Unit – should always be active – send routine messages "in Tsholotsho its now extremely hot – and droughts are the order of the day.	
Addressing economic vulnerabilities of women and girls	• Local NGOs • Local MPs • Local Councillors	• Opportunities for women to pursue climate change responsive gainful economic activities (projects) e.g., livestock production, irrigation facilities	• Projects for women • Livestock for women • Source of income • Transport – clinics are far away	



A 17-year-old girl's family are struggling to pay her school fees after Cyclone Idai caused widespread devastation across Zimbabwe.

©Plan International

Note: This photo is not of a research participant.

Cover photograph: ©Plan International

Design: Out of the Blue Creative Communication Solutions – www.outoftheblue.co.za

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、世界中の子どもたちの権利と女の子の平等の推進を目指しています。私たちプランはすべての子どもに能力と可能性があると考えています。しかしながら、貧困や暴力、疎外、差別によりその力を発揮できないことも少なくありません。そして、その影響を最も受けるのが女の子たちです。独立した開発・人道支援組織として、私たちは子ども、若者、支援者、関連団体とともに、女の子と弱い立場にあるすべての子どもたちが直面している現実の根底にある問題の解決に取り組んでいます。子どもたちが生まれてから成人するまで、その権利を守り、子どもたちが危機と困難に備え、対応できる力を身につけられるよう支援しています。その知見と影響力を活かして、私たちは地域・国家・地球レベルで人々の行いと政策に変革を促します。設立から80年以上、私たちは子どもたちとの強い絆の下、世界75カ国以上で活動を続けています。

Plan International
International Headquarters
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155
Fax: +44 (0) 1483 756505
E-mail: info@plan-international.org

plan-international.org

Published in 2021. Text © Plan International

facebook.com/planinternational
twitter.com/planglobal
instagram.com/planinternational
linkedin.com/company/plan-international
youtube.com/user/planinternationaltv